大仙市立中仙小学校　学校報

輝く ひとみ

令和２年度 第41号
令和２年10月1日

学校教育目標　　ゆめにむかって えがおいっぱい みんなでチャレンジ

＜実りの秋も中盤＞

実もさまざま、子どもたちの実りもさまざま

今日から１０月。５０周年記念式典の頃の残暑があまりにも懐かしく、名残惜しく感じます。朝夕の冷え込みもグーンと進み、少しずつ朝起きが億劫になってきました。もう５分、もう５分と目覚まし時計とにらめっこしているのならば、いっそ起きてしまえばいいのにと反省したりもします。

吹く風や日差しでさえも心地よい。そんなさわやかな季節です。「秋」は、何に取り組むにもぴったりです。昔から「〇〇の秋」と言います。いろいろありますが、よく言われるのは「実りの秋」。そこで、「自分という実」を素敵に実らせることを約束してはどうでしょう。「実」にもいろいろあります。梨やぶどうのように目に見えて育っていくもの、栗のように見た目はとがっているイガの中で、実（じつ）はおいしい実を作っているもの、里芋のように土の中で見えないけれど、栄養たっぷりの実を作っているもの。子どももそれと同じ。子ども一人一人のよさを見いだし、伸ばしていくようにしたいものです。そんな豊かな秋、１０月にしていきましょう。

今後の行事について

〇　３９号の裏面に１０月の行事予定を載せていますが、その一部を詳しく説明します。

①　１０月７日（水）　６年Ｎ１－フレンズ
　　来年度から本地区では、中仙中学校が唯一の中学校となります。今の６年生は、全員が同じ学び舎となります。その事前交流として行うものです。

②　当初予定していた「なべっこ」は中止とします。
　　今のところ、高学年の家庭科でも、調理等の学習をひかえている状況です。

③　１０月１６日（金）　スポーツフェスティバル
　　運動会とマラソン大会を一緒に行う計画です。観客の皆様の密を避けるため、平日の実施としました。
　　（来校者数は、例年のマラソン大会並みと考えています）
　　運動会と同様、色別に分かれて点数を競い合います。種目は、マラソンと綱引き（１年生は玉入れ）です。午前中には終了予定です。開始時刻などの詳細については、学年からのお知らせをお待ちください。
　　（テント等の設営はご遠慮ください。）

④　１０月２９日（木）　教職員の研究会
　　予定では休業日になっていますが、今年度はコロナ禍であることを踏まえ、１０月以降に大仙保健所管内で感染者が発生すると、研究会は行わない予定です。その際、この日は登校日となります。

２年連続の快挙

２年千葉響士（ひびと）さんが、秋田県トラック協会主催の「トラックの日」第２５回絵画コンクールで協会長賞を受賞しました。おめでとうございます。昨年に引き続きの入賞ということで、これも快挙です。響士さんは、「来年こそは、最優秀賞を取りたい」と意気込んでいました。「夢はきっと叶えられる」、そう願っています。

ゆめにむかって、みんなでチャレンジ！

立派な賞状をいただきました

＜大仙市アーカイブズの紹介＞

・大仙市内には、旧市町村ごとに民俗資料館のような施設があります。これらの施設は、かつて人々が使っていた生活用品、農作業用の器具等が展示されています。

　また、これとは別に、旧双葉小学校の校舎を活用した「大仙市アーカイブズ」があります。ここは、平成２９年５月３日、市の歴史資料として重要な公文書や古文書などの地域史料を収集・保存し、市民共通の財産として後世に伝えるとともに、それらを広く公開することを目的に設置されました。

　その大仙市アーカイブズですが、ちょうど今、中仙地域の「平瀬家」について、新着資料展が開かれています。興味がありましたら、どうぞ。　**※下に、少しだけ紹介します。**

新着資料展「平瀬家資料」　～中仙地域のとある土蔵に残された資料～

大仙市アーカイブズでは、行政が作成した重要な公文書と、地域の旧家等に伝えられた資料を、地域共通の財産として保存・活用するための整理作業を進めています。

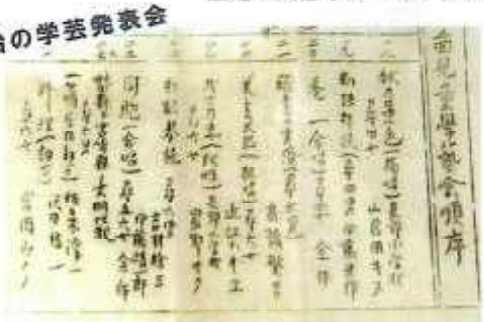
令和元年度は１１名から１万１千点を超える貴重な資料の御寄贈がありました。今回の新着資料展ではその中から「平瀬家資料」約５０点を展示しています。

期間：８月２２日（土）
～１１月７日（土）
会場：大仙市アーカイブズ

長野村の肝煎資料

長野村の肝煎を務めた平瀬家。藩から村々へ下された指示や連絡等を書き留めたものや、戊辰戦争時に藩が軍資金の調達を行った記録などが残されています。

明治の学芸発表会



鷲野尋常小学校第二回児童学芸会順序（明治 43）

貯蓄ハ米英ヲ撃滅スル弾丸トナル

必勝貯蓄ヲ必要トスル一例図解
戦争遂行のため、国民一人ひとりの貯蓄の必要性について、インフレを抑えるための経済理論を織りまぜて解説されています。

開催期間は１１月７日（土）まで
ぜひお越しください

平瀬家資料

平瀬家は、大仙市中仙地域の長野地区で、かつて呉服商を家業としていました。昨年度（令和元年度）、土蔵に残された資料を御寄贈いただきました。資料数は１，３４０点もあります。

江戸時代には代々「多右衛門」と名乗り、長野村の肝煎を務めたことや、明治時代には長野村の戸長を務め、戊辰戦争の戦後処理を行ったこと等についての資料が残されています。

また秋田県会議員、郡役所書記、さらには長野村の村長、村会議員、学務委員、秋田県種苗交換会評議員など地域の代表者としての顔も垣間見ることができます。そのほか、日露、太平洋戦時下の戦地からの便り、戦勝祈願の日の丸への寄書き、戦時中の長野村婦人会の活動なども残されていました。

ひとつの家に残された資料を通して江戸時代から戦前までの、私たちの地域の歴史に触れることができる資料群です。

箱（さや）に覆われた平瀬家の内蔵